

(一社)日本塑性加工学会共催 塑性加工シンポジウム 「成形シミュレーションのための 材料試験」

都産技研では、中小企業のものづくりを支援するために、学協会連携事業を実施しています。7月26日、本部5階講堂にて、一般社団法人日本塑性加工学会と共催のシンポジウムを開催しました。近年、塑性加工分野では、FEMによる金属成形シミュレーションが盛んに行われていますが、解析を行うにあたり、計算技術的な問題はおおむね解決されており、解析精度のさらなる向上には、入力すべきデータの精度を向上させることが非常に重要です。このシンポジウムでは、板成形加工および鍛造加工のシミュレーションに必要な入力データを得るための材料試験法などについて、専門家である大学や企業の方にプレゼンを行っていただきました。会場に集まった参加者は、積極的に意見交換をされていました。



▲講演会の様子

多摩テクノプラザ 「子ども科学技術教室」開催

8月1日～2日、多摩テクノプラザでは「子ども科学技術教室」を開催しました(協力:立川・自然と科学の会)。このイベントは、夏休みの子どもと保護者に、科学技術に親しんでいただく行事です。「真空をつくってみよう」では、手づくりの真空ポンプで風船を膨らませたり、低温のお湯を沸騰させるなどの実験を行いました。「ウインドカーをつくろう」では、向かい風の力を利用して、風に向かって走るくるまの製作を行いました。

その他にも、簡単な電子工作でモールス信号の通信体験や、首都大学東京システムデザイン学部 武居直行准教授の指導による、水中を泳ぐ「おさかなロボット」の製作を行いました。参加した子どもたちは「難しかったけど楽しかった」「うまいかないところ面白い!」と、ものづくり体験や実験を心から楽しんだ様子でした。



▲「おさかなロボット」をビニールプールで泳がしているところ

協定連携大学からの研修生を 受け入れ

都産技研では、協定連携機関を含む大学・大学院の学生を受け入れています。平成24年度は16大学37名の学生を受け入れました。

現在、材料技術グループで研修を受けている芝浦工業大学大学院の大塚 圭さん(修士2年)は、「大学にはない実験設備が充実しているし、きちんと指導してもらえるので、研究もスムーズに進みます。自ら行動することを大事にしたいです」と語ります。また、同じく芝浦工業大学の永井 拓磨さん(学士4年)は、「以前見学して都産技研のことを知り、先輩の大塚さんからの紹介を受けて入りました。教科書やテキストにはない研究方法を自ら見つけ、マニュアル化する能力を身に付けられれば、今後どの業界や企業でも生かせるのではないかと思います」とのコメントでした。都産技研では、今後も若い研究者の人材育成や専門技術の習得を目指して研修生の受け入れを行っていきます。



▲都産技研 研究者から指導を受ける学生

江東区主催 「第9回 こうとう産学交流会の ご案内」を後援

都産技研と江東区は、平成23年9月に協定を締結し、さまざまな業務連携を行っています。今年、7月26日に江東区主催で行われた「第9回 こうとう産学交流会」を後援しました。企業の「技術力」と大学の「研究力」を結びつけることを目的とした交流会で、芝浦工業大学豊洲キャンパスにて開催されました。区内企業の事例発表や芝浦工業大学を含む各大学の取り組み発表、懇親会なども行われ、集まった中小企業の方や大学関係者が交流する絶好の機会となりました。



▲発表の様子